



We Serve

The International Association of Lions Clubs



10.11.12

No.2

2009. 第68号

平成21年11月20日発行



ガバナー公式訪問 全日程を終了 会場を包む熱き思いを痛感

ライオンズクラブ国際協会336-A地区2R

地区ガバナー公式訪問



2009～2010年度
336-A地区ガバナー・スローガン
ライオンの未来に
情熱と夢を持ってウイザーブ
地区ガバナー 武久一郎



2009～2010年度 国際会長プログラム
個人的成長と会員増強
国際会長 エバハルト・J・ヴィルフス

8月1日の8Rから始まったガバナー公式訪問は、9月13日の7Rで全日程を終えた。7月10日に336-A地区ガバナーに就任し、帰国後3週間余りで公式訪問を開始。また、今年度から従来のリジョン単位からゾーン単位への変更というプレッシャーを感じながらの公式訪問であったと思われる。

武久ガバナーはエバハルト・J・ヴィルフス国際会長のテーマである「MOVE TO GROW」に込められた努力・成長・推進力といった思いや、新しい試みである第二副地区ガバナー制の活用、ライオンズクラブ国際協会青少年音楽祭等について説明された。

次いで武久ガバナーは何点かの要望事項を説明されたが、とりわけ喫緊の課題である会員増強について、「昨年度は336-A地区では471名の入会者と746名の退会者があり、275名の減員となったことを考えると、退会者をいかに減らすかという会員維持が大切になる。本年度より導入するメンタープログラムなどを活用し退会の防止に努めていただきたい」と要望し、「是非とも純増2名を達成して欲しい」と改めて要望された。

武久ガバナーからは回答書に記載された回答では判断のつきにくい事項に対する質問が、クラブ会長からは会員増強についても各クラブの置かれた地域の事情や、その対応策などきめ細かい説明がなされた。また、記念行事や入会式へのガバナーの参加要請など、従来の公式訪問では見られなかった、活発な質疑が行われた。

ゾーン単位で実施された公式訪問の最も優れていた点は、武久ガバナーをはじめとするキャビネットと各クラブの会話のキャッチボールにあったのではないかと。各クラブの会長はクラブ運営に対する考えや抱負を、時間を気にすることなく述べることで、また、武久ガバナーも各クラブ会長の発言に耳を傾け、時にはメモ取り質疑に臨んでいた。武久ガバナーに質問が寄せられ、そのつど丁寧にアドバイスをするといった光景が随所に見られ、実り多い公式訪問であったと思われる。

(取材：地区誌編集委員会・関 勝美)

地区ガバナー公式訪問を終えて

336-A地区ガバナー

武久一郎

2009-2010年度の336-A地区ガバナー公式訪問は、これまでのリジョン単位をゾーン単位で行い、ゾーン内の各クラブの会長の思いをお聞きし、質疑応答の中でより会話を通じて意思の疎通を図ることを目的としました。同時にガバナー諮問委員会とゾーンレベル会員委員会を同じ日に開催し、1日に三つの会議を行うことにより集約化の試みを行いました。

参加したクラブ役員の方々には初めての試みであり、戸惑いや長時間拘束というお疲れもあったことと思いますが、また、我々キャビネット役員も同じような感想を持ったであろうと考えられます。しかし、私としては意義のある公式訪問で、楽しく、また各会長とのお話の中で、いづらかお互いに分かり合えたのではないかとひそかに自負しております。

この、ゾーン単位で公式訪問を行うやり方は、次年度も多少の改善を加えながら継続していただければ幸いであると思っており、各クラブ役員の方々、また、キャビネット役員の方々の忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

Contents

表紙2 336-A地区 ガバナー公式訪問

- 1 地区ガバナー公式訪問を終えて
- 2 各リジョン ガバナー公式訪問
- 11 新クラブ誕生 徳島やまももLC
- 12 YE事業報告 サマーキャンプ
- 14 YE事業報告 ホストファミリー雑感
- 19 YE事業報告 派遣生報告
- 22 ライオンズクエスト ワークショップ
- 27 クラブ通信
- 29 周年事業報告

表紙3 物故会員／編集後記

表紙写真／池内 正(土佐清水ライオンズクラブ)



公式訪問、温かなホームで第二步

□ 8Rガバナー公式訪問 8月1日(土)
□ 徳島グランドホテル 偕楽園

武久ガバナーが最初の訪問先を選んでのは8R1Zの6クラブ。8Rには武久ガバナーの所属クラブがあるので最初の訪問先になったとか……。しかし、国歌斉唱の伴奏テープが回らないというハプニング。波乱のスタートかと思われたが、逆に会場内の緊張感が和らいだ。

武久ガバナーは「本来は私が各クラブを訪問しなければならないが、それは時間的に不可能です。従来のリ

ジョン単位ではなく、少しでも多く皆さんとお話をするため、今回はゾーン単位でお集まりいただいた」と公式訪問のゾーン単位への変更理由を話された。

エバハルト・J・ヴィルフス国際会長のテーマである「MOVE TO GROW」、そのシンボルとしてのイチヨウの木について、また武久ガバナーの掲げたスローガンおよびテーマに沿った各クラブでの活動がライオンズクラブの活性化に繋がると語りかけた。各委員長が全員出席し、特に大森地区年次大会委員長からは「来年4月10日、11日に第56回地区年次大会を徳島で開催いたしますが、



8R、9Rの34クラブがホストクラブとなっており、是非とも全員が登録いただけるようお願いいたします」と要望された。

各会長の発言のなかには「私の兄（武久ガバナー）が大変お世話になっていますので、純増10人を目標としています」とか「エクステンションが進行しています」。あるいは「ライオンズクエストのワークショップを開きたい」等々、会長の熱い発言が続き、笑い声や歓声があがるなど従来の公式訪問にはない会場の雰囲気であった。メンタープログラムの活用を希望するクラブに対しては、ワークショップのような形で応援したいと返



答をするなど、随所に武久ガバナー、川辺キャビネット幹事とクラブとの会話が、従来の公式訪問とは一味違うシーンが多く見られた。

リジョン全体会では「公式訪問を含め1日で3つの会議に出席された皆さんは、大変お疲れになったと思いますが、対話のある大変有意義な1日になりました」と挨拶され、各クラブに記念品を手渡された。記念撮影後の懇親会で何人かに意見を伺うと「1日に3つは疲れたが、公式訪問では時間を気にせずに話せてよかった」との声を聞き、今後の公式訪問の成功を確信した。

(地区誌編集委員会…関 勝美)



地域との連携を軸に奉仕活動

□ 9 R ガバナー公式訪問 8月2日(日)
□ 徳島グランドホテル 偕楽園

梅雨が明けたにもかかわらず、今にも雨の降りそうななかで9 R のガバナー公式訪問が、前日の8 R に引き続き偕楽園で行われた。新しい試みとなったゾーン単位の公式訪問は、隙のない時間割でスムーズにそれぞれの会が進行していた。

武久ガバナーの要望事項である会員の維持・増強に関し各クラブより会員増強に力を入れており、あるクラブの会長からはすでに8名が入会したとの報告があり会場を沸かせた。9 R 全体の印象として、地域に根ざした奉仕活動が際立っていた。お遍路さんの接待、アドプトハイウェイの日本版第1号となるクリーンアップ神山、月見ヶ丘公園のアドプト事業など地域の方々と一緒になって行



う奉仕活動が長年にわたって継続しているのが印象深い。

9 R には少人数のクラブもあり、今後の運営に対する不安の声が上が

ったが、武久ガバナーは「少人数でも会員同士の団結で、夢を持って前進して欲しい。少人数のメリットを生かしてください」と語りかけた。

一方でクラブの出席率について「出席率にこだわる必要があるのだろうか」との問いに対して、武久ガバナーは「例会出席は会員の義務と突っぱねるつもりはありません。しかし、例会の充実がクラブの根幹をなすもので、楽しい例会の運営や活発な委員会活動がクラブを活性化させ、ひいては退会の防止にも役立つと思っております」と例会の重要性について述べ「例会日や時間の設定にも工夫をしてみてください」と付け加えた。

「例会日や時間の設定にも工夫をしてみてください」と付け加えた。

広報活動についても「年間12回の発行は非常に珍しいことではないでしょうか。また、会報誌を地域全体に配布してライオンズに対する認識を高めているクラブもある。是非とも

継続していつて欲しいですね」と感心をされていた。

リジョン全体会で「会員の維持と増強に対する真摯な取り組み、地域に根ざした奉仕活動、そして熱意を持って事業を継続しているクラブの多いことに感銘を受けております。9 R は県西から県央まで広いエリアですが、こうしてお話を伺うと、地域に密着した奉仕活動や出席率などクラブの抱える問題にも似た傾向が見られます。言い換えればリジョンとしてまとまっているということになるのでしょうか。これからも地域に根ざしたクラブ運営を続けてください」と結ばれた。

(地区誌編集委員会・林 早苗)



洗練されたクラブの熱い思い

□ 1Rガバナー公式訪問 8月8日(土)
□ ウェルピア伊予



四国のライオンズは、1R1Zの松山ホストクラブから始まったと聞く。ウェルピア伊予は、スポーツ施設の併設された緑豊かな会場であった。

道後の湯で前日の移動疲れを癒して臨んだ公式訪問は、松山市及びその周辺をエリアに設立されたクラブで構成する1R。各ゾーンでは出席者の拍手に迎えられて武久ガバナー

が入場。

武久ガバナー、川辺キャビネット幹事などいずれも緊張気味だが、2Zの松山湯築クラブ所属の菅第2副地区ガバナーには余裕がうかがえる。武久ガバナーにはミネアポリスのガバナーエレクトセミナーでのハプニングなどから本論に話を進め、「MOVE TO GROW」の情熱と意義を、そして「初心」をキーワードとする336-A地区の基本方針を要望事項として伝えた。



会長の抱負では「多くのクラブが経済状況の厳しさを反映して、経済的理由での退会も少なくない。メンタープログラムなどを取り入れ退会防止に努めたいので、キャビネットの支援も欲しい」といった率直な意見も武久ガバナーに寄せられた。

武久ガバナーは、各クラブ会長の抱負や事業内容の説明、会員増強についての発言に聞き入り、時にはメモを取り、「長い間、継続

している事業の多いのに驚きました」「各クラブの会員増強の成果を楽しみにしております」と述べ、各クラブとの間で質疑を行った。こうした意見交換ができるのも、ゾーン単位の少人数による時間的余裕によるのだろう。

リジョン全体会では、「皆さんの熱意を感じさせていただきました。さす

がに1Rですね。私がお願したことの多くが方針に取り入れられ、すでに実行されている。各会長の熱い言葉からライオンズクラブに対する愛情も感じ取ることができました。これも伝統のある1Rの姿なのだと感心をし、今日のこの感激を今後に生かしていきます」と結んだ。

休憩時間にゾーン単位の公式訪問について2、3の会長に尋ねると、8R同様の答をいただき、また「他のクラブと話がしたかったので懇親会も開いて欲しかった」との意見も聞かれた。徳島キャビネットが宇和島へ移動するため、懇親会が開けなかったのだが、懇親会にはやはりそれなりの意義があるようだ。

(地区誌編集委員会・関 勝美)



ふるさとを思う奉仕活動

□ 3Rガバナー公式訪問 8月9日(日)
□ サブライムホール

夕方から降り始めた雨の中を宇和島市内のホテルへ移動。当日は昨夜来の雨が更に激しくなり、それどころかJ R予讃線の一部が不通となり、内子L Cは途中からタクシーに乗り換えて会場に駆けつけた。3 Rの属する南予の広さをまず知らされた。それだけに3つの会議を同時進行するための会場準備など、ホストクラブは大変であったろう。

会場のテーブルはコの字形に並べられており、出席者はお互いの顔を見ながら議事に臨んだ。対面型とは違う緊張感がある。

3 Zの木下Z Cは、宇和島と徳島はシーボルトを介して不思議な縁があると歓迎のご挨拶で述べ、和やかに公式訪問が始まった。

3 Rは都市、農村、漁村を地域とするクラブが混在しており、また平成の大合併にも影響されるなどクラブの抱える問題も多様だが、武久ガバナーは、渡辺3 R Cがリジョン全体会で「地域の実情を踏まえたご指導に対し心から感謝する」と述べたよう



に、各クラブの問題に丁寧な答えていた。少人数のクラブに対しては「会員が少ないからと悲観的にならず、会員が少なければそれだけ会員間の連携が十分に取れるので、別の面から考えてクラブ運営をするという柔軟な考え方を持つて欲しい」とアドバイスを送った。

リジョン全体会ではせっかく用意された横断幕が掲げられないハプニングもあったが、宇高第2副地区ガ

バナーが「3 Zでは地域の人に幸せになつてほしいという思いが伝わってきた。2 Zでは自分自身がクラブ活動の中で、新しい自分になっていく。それが今叫ばれているクラブの改革につながっていく。私自身もどれだけ新しくなれるか興味津々である。そして、1 Zはふるさとを愛する気持ちから出た奉仕に地域への思いが伝わってきた」と各ゾーン

の熱のこもった報告を総括された。武久ガバナーは「まず、徳島キャビ

ネットに対する温かい歓迎に感謝します。そして、できるなら来年後半にもう一度公式訪問をして、検証を試してみたいと思うくらいです。熱い思いが伝わってくる会合は、私にとつて素晴らしい体験となりました」と3 Rの公式訪問を結んだ。

豪雨の影響で徳島自動車道が美馬から閉鎖されており、キャビネット事務局に戻ったのは、午後11時を過ぎていた。長い1日であった。

(地区誌編集委員会…)

関 勝美



志の高さに大きな拍手

□2Rガバナー公式訪問

8月22日(土) 1Z・3Z ユアーズ
8月23日(日) 2Z・4Z 今治商工会議所

今年度のガバナー公式訪問は、武久ガバナーの新たな方針によりゾーンごとに開催されることになった。2Rは地域性を考慮して1Z・3Zの9クラブが8月22日(土)に新居浜市のユアーズで、2Z・4Zの9クラブが翌23日(日)に今治市の今治商工会議所で、それぞれガバナー公式訪問を開催した。両日ともに残暑の厳しいなかでの公式訪問であったが、実り多い2日間となった。

各ZCの挨拶があり、武久ガバナー、川辺キャビネット幹事、各委員から各クラブ会長への要望のあと、今年度の各クラブの事業計画や会長の抱負が述べられた。休憩を挟んで武久ガバナーから各クラブへの質問、各会長からの説明や要望が活発に行われた。各クラブの事業活動を武久ガバナーがリジョン全体会で総括して感想を述べた。

2Rの各クラブは青少年育成事業



が活発で、サッカー、バレーボール、ソフトボール大会などを開催しているが、ユニークなのは、全国的に若者たちに人気が出て来ているスケートボードコンテストを行っているクラブもあり驚かされた。いずれのク



ラブもスポーツを通じて青少年育成が盛んであった。ライオンズクラブの大きな事業でもある献腎、献眼など四

献運動に積極的に取り組むクラブも見られた。

その一方で障害者や障害児童とのふれあい事業活動を長年にわたって継続事業として続けているクラブも数多く見られる。2R全体のアクティビティを見ると、非常にバラエティに富んでおり、また、それぞれのクラブの特色となっているように感じられた。

私が一番驚いたというより、会場全体が驚きに包まれたのは、今年、結成20周年を迎えるクラブが、その記念事業として日本を代表する「新日本フィルハーモニー交響楽団」を招いてのコンサートを計画していると



の発言だった。会長自らの感激を子供たちにも伝えたいとの熱い思いで、地方都市での公演を実現させるため、会員が一丸となって取り組んでいるとのことだった。

武久ガバナーもこのすばらしい事業に感銘を受けた様子だった。2R内の各クラブの今年度の目標と抱負は、いずれも甲乙つけがたく武久ガバナーも「いずれの事業もぜひ成功させてください」と激励のことばを送った。懇親会でも各クラブの出席者と武久ガバナーとの会話が続き、とても身近で親しみのある公式訪問であった。

(地区誌編集委員会・眞貝浩司)

出席率の向上を退会防止に

□ 4Rガバナー公式訪問

8月29日(土) 1Z・2Z 高松国際ホテル
8月30日(日) 3Z・4Z 高松国際ホテル



4Rは高松市を中心とする23クラブで構成されており、29日には1Zと2Zが、30日には3Zと4Zが、それぞれ高松国際ホテルでガバナー公式訪問を行った。

武久ガバナーは残暑の厳しさにもかかわらず、ラストスパートといった感じで「今期はゾーン単位という形の公式訪問にさせていただいたが、これまで多くのご意見を伺うことができ、今日も皆様方とどのような対話ができるのか楽しみにしています」と、多くの収穫を得た様子であった。

各クラブの事業は青少年育成や各種団体のサポートなど多彩であり、地域密着型のアクティビティを目指していた。例会では奥様の誕生日に花を贈る、誕生日に結成した年の新聞をプレゼントする、テールツイスターのテーマ曲、邦楽や社交ダンスを取り入れているという楽しそうなクラブがあった。各クラブが出席率の高い例会を目指しており、そのことが退会の防止に繋がるとの意見が多かった。

事業資金の獲得にも熱心に活動されており、チャリティーバザーやゴルフも盛んのようにだが、景気の悪化により事業資金の不足を訴えるクラブもあり、武久ガバナーは「活動資金を集めにくい時代だからこそ、一人ひとりが汗を流し、地域を巻き込む活動をお願いしたい」と発想の転換を促した。

クラブからの「CSFⅡの今後の方針」がありがとうハガキについて」などの質問に対し、武



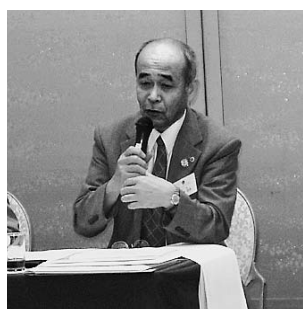
久ガバナーがそれぞれの経緯を説明し、ガバナーズ・アワード表彰について「前半が重視されていて、後半がないのでは」との不満の声には、「今年の2月1日から6月30日の申請書類は前キヤビネットより引継ぎ、同様に来年の申請書類は次期キヤビネットに申し送りますので、対象と



なる事項については必ず申請して下さい」と丁寧にご答えていたのが印象的だった。

武久ガバナーは「例会のあり方に関しては、いろいろな機会を作り他のクラブの例会に出席することをお勧めします。10名の会員増強を目指すクラブもあり、4Rの皆さんの決意のほどを感じることができ、その成果に期待いたしております。伝統を重んじながらも改革すべきは改革していくという姿勢は、今、最もライオンズクラブに求められているのではないかと思っております」と総評を結ばれた。

(地区誌編集委員会・延 善之)



会員増強に対する熱い思い

□ 5Rガバナー公式訪問 9月5日(土)
□ まなべ結婚式場

9月に入り秋とは名のみの残暑厳しい1日であった。会場は満濃町にあるまなべ結婚式場で、5RRCの真鍋様が経営されている。とても広々としており、落ち着いた雰囲気の素敵な会場であった。

5Rは1Zと2Zの各6クラブで構成されており、非常に活気の

あるまとまったりビジョンという印象を受けた。武久ガバナーの強い要望である純増2名に対し、どのクラブも熱心に取り組まれており、高い目標を掲げ努力をされている様子が、各会長の抱負から伝わってくる。336-A地区では、6月30日現在の数字ではあるが、5Rのみが会員

増になっている。とても素晴らしいことで、今後の結果が楽しみです。

5Rは一貫して地域に密着した青少年育成に取り組んでいる。野球、バレーボール、剣道、柔道、ソフトボール、そして地域の特性を生かしたカヌーなどに対する各クラブの継続、あるいは新規事業の数々、その精力的な活動に圧倒される思いだった。青少年育成はスポーツだけではなく、読書感想文コンクール、また「石見がら」を上演し子供たちに文化の大切さを感じ取ってもらいたいと新規事業を計画しているクラブなど、各クラブともとにかく熱い。青少年育成を競い合っているかのように感じられた。競い合うと言えば、各クラブがほとんど姉妹クラブ提携をしている。それも名ばかりの提携ではなく、何らかの交流をしていることにも驚かされた。

もう一つ驚かされたことがある。私のクラブでも献血キャンペーンを実施しているが、あるクラブでは今期の献血者の目標を1万5000人だと当たり前のように述べていた。このクラブは例外だが、各クラブ平均年3回、毎回200名から300名の献血者を集めていた。

武久ガバナーはリジョン全体会で「皆さんの活動を伺っていると、ライ

オンズクラブの活動は、

こうあるべきなんだと思えてなりません。会員増強に対する熱い思いも

伺い、心強い限りです。その成果を大いに期待しています」と総括した。

懇親会では観音寺LC浅野会長のソングリーダーの指揮で「また会う日まで」を全員で熱唱。時間の過ぎるのが早く感じたのは2ゾーンというだけでなく、伯仲した討議によるのだと思う。5Rは最後まで熱かった。

(地区誌編集委員会・林 早苗)



5R-1ZC



5R-2ZC





土佐の熱い意気込み

□ 6R ガバナー公式訪問 9月12日(土)
□ 三翠園ホテル

私は朝9時に始まる公式訪問に間に合うように徳島を出発。武久ガバナーは今年度のガバナー公式訪問では、クラブとの直接対話を重要視した。その答えとしてゾーン単位の公式訪問となり、6R1・2・3Z、17クラブの役員と地区役員が9月12日、高知の三翠園ホテルに集まり6Rガバナー公式訪問が行われた。

武久ガバナーはミネアポリスで7月10日に336-A地区ガバナーに就任したときの思い、エバハルト・J・ヴィルフス国際会長の思いを伝えた。また、ガバナーキードとして「初心」を選んだ理由を熱く語られた。川辺キャビネット幹事の進行により、各クラブへの要望事項と質問が行われ、各クラブ会長の今期目標と抱負が、次々と語られた。

各クラブでは地域に密着した奉仕活動や青少年育成活動が行われている。もちろん地道な河川や海岸、公園などの清掃、花植えや植樹も盛んに行われている。あるいは青少年育成活動としては歴史の浅いライオン



ズクエストにいち早く手を挙げたのが6Rのクラブだ。進取の気性に富む県民性なのだろうか。すでにワイクショップの段階からライオンズクエスト・プログラムのフォローアップに取り組んでいる。国際交流の活発なクラブもある。自閉症児、小児糖尿病への支援、聴覚障害者や児童養護施設への奉仕等が活発に行われているのが特に印象的だった。



土佐では女性を「はちきん」と呼んだりするそうだが、6Rには女性会員のみのクラブが2つあるのも336-A地区では出色ではないだろうか。また、「私が感動した優しい思いやりを他の人にも感じて欲しい」という会長の思いが、女性クラブを引っ張っていく。優しくて明るい太



陽のような女性たちのクラブが、6Rを牽引しているのかもしれないと思った。

ライオンズクラブの毎年のスローガンである会員増強についても、各クラブの純増目標は大きく6Rでは必ず2名以上の純増が達成できると思われる。

6Rは高知市内から足摺までじつに広いエリアをカバーしている。そうしたことへの配慮と思われるが、懇親会の円卓には5つくらいクラブが同席するようになっていた。普段は接しにくい他クラブのメンバーと、高知流の懇親が広がっていた。

(地区誌編集委員会・眞貝浩司)

いびつそづの頑張りを体感

□7Rガバナー公式訪問 9月13日(日)
□高知プリンスホテル

8月1日から始まった336-A地区のガバナー公式訪問も、いよいよ7Rで最後となった。9月13日(日)高知プリンスホテルにおいて7Rのガバナー公式訪問が行われた。7Rは昨日の6Rとは逆に高知市内から室戸までやはりエリアが広い。

こうした地域性もあってか7Rの16クラブは50周年を迎えるクラブ、結成後4年と新しいクラブ、そして



70名を超える会員数を持つ大きなクラブ、また10数名と少数精鋭で頑張っているクラブと地域による違いも著しい。しかし、クラブの歴史や規模には関係なく、どのクラブもライオンズクラブの会員としての自覚と誇りを持って活動されている様子が言葉のはしはしから感じられた。

50周年を迎えるあるクラブでは新しい試みとして「高知を明るく元気に」をテーマにして、高知県民80万人がライオンズクラブに何を求めているかを尋ね、記念事業にいかす方向で活動していた。少人数で頑張っているクラブでは、高齢化の進む地域で何をすればよいのかを模索しながら会員の倍増を目指していた。

継続事業も5年、10年という長いスパンの事業も多く見られ、各クラブが児童養護施設や児童福祉施設などへの奉仕活動を続けている。盲学校の新入生への音声腕時計のプレゼント、課外体験学習の支援、弱視者用地球儀の寄贈、まだ調査中とはいえ、拡大教科書の作成を支援しよう

とする声も聞かれた。

国際文化交流、Y.E留学生との日本文化体験アクティビティや地域のライオンズの森の整備や維持管理、また公園や河川の早朝清掃など多くの事業を行っていることが、各会長から熱く語られた。「まんが甲子園」や「よさこい祭り」のサポート事業という高知ならではの事業もあった。

武久ガバナーは「少人数のクラブから会員を倍増したいというありがたいお話を伺った。地域に根をおろした真に必要とされる事業を行い、小



さなクラブのメリットに目を向けて頑張ってほしい」とエールを送り「ゾーン単位の訪問に変えて本当に良かったと感じています。今日も会長より色々なお話が聞け、7Rはもちろんすべてのクラブがますます発展していくと確信しました」と、公式訪問の全日程を終えた感想を話された。

私も3つのリジョンの取材をしたが、多くのクラブが頑張っていることを知り、大いに元気づけられ有意義な取材となった。

(地区誌編集委員会・眞貝浩司)



10月1日、徳島建設センターにおいて、徳島やまももライオンズクラブは最初のクラブ例会となる結成会を行なった。結成会には武久一郎地区ガバナーをはじめ関係者50名余りが出席した。

徳島やまももライオンズクラブのスポンサーとなった徳島城山ライオンズクラブでは、一昨年より『エクステンションこそ最大の奉仕』を合言葉に新クラブの立ち上げに努め、28名の会員を得て、この日の結成会を迎えた。徳島城山LCのEXT特別委員会の上田美治委員長より経過報告が行なわれ、次いでクラブ役員として会長には武久良史氏、幹事に近藤諭氏、会計に伊藤八重氏、チャーターナイト委員長

栗田勝氏などを選出した。武久地区ガバナーは「336-A地区では2年ぶりの新クラブの誕生です。しかも非常に若い方々によって結成されており、新しい風を送り込んでくれるものと大いに期待を致しております」と若い会員の情熱に期待を寄せた。

また、会長に選出された武久氏は、「スポンサークラブをはじめ多くの方々のご協力をいただき、本日ライオンズクラブとしての第一歩を踏み出しました。会員一同、なお一層団結しチャーターナイトに向け努力をしてみたいです。今後とも皆様のご指導ご鞭撻をよろしく願いたします」と挨拶。スポンサークラブの白石会長は「結成会にご参加を

いただき誠に有り難うございます。会員たちは身の引き締まる思いとともに、認証式に向け更なる団結心を持ち、希望に燃えていると思っております。スポンサークラブとして、クラブライフを存分に楽しみながらともに歩んでまいりたいと思っております。皆様方の倍旧のご指導をよろしくお願いいたします」と挨拶された。

徳島やまももライオンズクラブは、26歳から51歳の会員28名(女性会員2名)、平均年齢は39歳という初々しいメンバーで構成され、336-A地区8R2Zに所属し、12月6日(日)に徳島東急インにおいて336-A地区256番目のクラブとしてチャーターナイトを開催する。

新クラブ誕生

徳島やまももライオンズクラブ

クラブ結成会を実施

会長に武久良史氏を選出

336-A地区 8R 2Z



み徳島のおもてなしを満喫



Sebastian BUTZ (ドイツ)

親愛なる皆様、このキャンプで日本のことを学ぶ素晴らしい機会になりました。いくつかの他の国の人たちも来ていました。このプログラムも大変興味深いもので、日本の文化に触れる良い機会になりました。

阿波踊りのような伝統的な踊りや日本食を食べたことと同時に、世界中の人たちと交流を深めるいい機会になったことなど、いろいろなことが盛り込まれていました。明日、このキャンプを去らなくてはいけないので、すごく寂しいのです。なぜなら私には大好きな友だちができましたが、彼らにはもう二度と会えないかもしれません。

振り返ってみると、このキャンプは本当に素晴らしく、このような機会を与えてくださったこと、本当にありがとうございます。

YE交換事業を開催して

YE・国際協調委員会 委員長 阿部 幸市

YE事業は青少年に海外でのホームステイやユースキャンプでの交流によって、他国の文化を体験し、未来の健全な国際人としての自覚と責任感を育み、自国の文化を見直し、国際親善とグローバルな交流により世界平和とライオンの未来を担う若者を支援するプログラムの一つです。

本年度の宿泊所は、徳島グランドホテル偕楽園とし、7月20日(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)の4日間とし、336-A・B・C地区の合同キャンプとして開催いたしました。日本のレオクラブの2名をはじめとして、世界各国の若者29名が集いました。

7月20日、午後3時からの開村式に始まり、21日には午前9時40分より鳴門の渦の道で渦潮の景観を真上より見学し、10時50分より小雨の中でありましたが、観潮船で大渦の醍醐味を体験していただきました。午後1時から5時まで大塚美術館にてロボットによる英語の案内で、各国の若者に絵画に親しんでいただきました。22日には午前8時50分より瑞巖寺にて座禅と庭園散策をして日本文化に触れていただき、10時10分より眉山山頂で徳島市の景観を覚えていただき、午後1時30分よりは藍住町の藍の館で藍染めの体験、午後3時には眉山下の阿波おどり会館にて阿波踊り体験、そして最終日となった23日の餅つき体験まで、さまざまな日本文化を体験していただきました。

言葉や習慣の違いからとかくホームシックになりがちなホームステイの若者たちに阿波踊り体験を通じ、交流の楽しさを倍増し実感していただきました。

サマーキャンプの開催にあたり武久地区ガバナー、宇高第一副地区ガバナーをはじめライオンズ関係各位、殊に各リジョンの委員の皆様方には猛暑の中、朝早くから夜中まで体力を消耗しお世話になりましたことは、誠に感謝の念に耐えません。

また、ホームステイをお引き受けくださいましたライオン各位には、長期にわたり世界各国の若者と寝食をともにし、アットホームな関係を築き、きめ細かな国際親善に貢献くださいましたことに対し、心より厚くお礼を申し上げます。

帰国した若者たちが明日を担う若者として成長し、立派な国際感覚の持ち主となり社会貢献されることを期待しております。

サマーキャンプA・B・C合同





Youth Exchange Camp

336-A・B・C地区合同YEサマーキャンプ

友情を育

Denisa MAKOVA (スロバキア)

先ず私のこのたびの感想を述べる前に、ライオンズクラブの皆様は私の多大なる感謝の気持ちを述べさせていただきます。ライオンズクラブは素晴らしい組織で、さまざま々々をサポートしてくださり、また私たちのような若者にも視線を向けてくださっています。私にとって海外で時間を過ごすことができるのは、素晴らしいことだと毎回思います。

ライオンズクラブは私たちに素晴らしい時間を与えてくださいました。とても楽しく興味深く、私の人生において忘れることができません。

今は2009年度のキャンプが終わろうとしているので少し悲しいです。でも私たちにはたくさんの思い出と素晴らしい友だち(日本、台湾、イタリア、トルコ、オランダ、アメリカ)をつくることができました。友情は一生続きます。

最後になりましたが、心から感謝するとともに、もしスロバキアを訪れたいと思う人は電話を下さい。一度は見ておいて欲しい素晴らしい国ですよ。

劉 建佑 (台湾)

この4日間、私はいろんな国の人々と活動に参加したり、話をしたりしました。本当に楽しかったです。このような機会を与えてくださったライオンズクラブの皆様には、感謝の気持ちで一杯です。このYE活動で英語と日本語を、もっと学ばなくてはいけないと思いました。最後になりますが、ライオンズクラブのメンバーの皆様、本当にありがとうございました。

許 婷婷 (台湾)

私はこのキャンプに参加することができて、本当に嬉しく思います。そこにはさまざまな国の人々(イタリア、アメリカ、日本など)が参加していました。日本語と英語を話すのは私にとって難しいけれども、たくさんの人々がとても親しみやすく、おもしろかったので本当に楽しかった。もうキャンプも終わりに近付いていますが、私はこの4日間でお互いが共有した時間を絶対忘れることはないでしょう。

韋 于婷 (台湾)

私はこのサマーキャンプに参加する機会を頂いて、本当に嬉しかった。いろんな国から来た人たちとお互いに交流を深め、とても楽しむことができました。

私たちはお互いの文化や習慣を共有し、そのことについて意見を出し合うのは、本当に楽しかったです。このキャンプに参加できて本当に嬉しかったので、また参加できる機会があればいいなあと思います。ライオンズクラブの皆さま、本当にありがとうございました。



Maria Laura BARILLARI (イタリア)

今年、私はこの美しい国日本に来る機会を与えてもらいました。キャンプで過ごした時間は楽しかったですが、残念なことに余りにも時間が短かったように思います。

鳴門の渦潮は本当に素晴らしかった。私はあのような物を見るのは初めてでした。また、大塚美術館では不思議な気分になりました。なぜなら私はここにあるほとんどの作品を見たことがあり、中でも2つのモザイクの作品は私の住んでいるところのものだったからです。

阿波踊りは興味深く、おもしろかったです。新しい文化と伝統を知ることは、いつも素敵なことだと思います。ライオンズクラブの皆さんが私たちのために費やした時間に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。日本を訪れる機会を与えてくださって、本当に幸せです。ありがとうございました。



YEは不思議な アクティビティ

高知黒潮ライオンズクラブ

山本 哲美

高知黒潮ライオンズクラブでは、このところ毎年、YE生の受け入れを行っています。今夏は、劉建佑君が台湾よりやって来ました。彼は日本のマンガやアニメに興味があり、7歳のときから、日本に行ってみたいと思っていたそうです。

クラブメンバーのL池田、L山本会長、そして私の3家庭でホストファミリーを引き受けました。特にL



国分寺の山門前で劉君とバチリ



劉君と山本ファミリー

池田は初めてのホストファミリーの経験で、期待と不安でいろいろな心配されたようですが、長女の有紗さんを中心に、片言の英語を交えてコミュニケーションをとり「とてもよい思い出となりました。貴重な3日間でした」と連絡をいただきました。また、L山本会長の長女的美智世さんは、大学で中国語を選択されていて、中国語の勉強も交えて交流をされたそうです。若い人たちの国境を越えた交流が深まることを期待します。これこそライオンズクラブがYE事業に求めていることだと思います。

ホストファミリーを引き受けている最中は、YE生が「おなかをすかしていないか」「言葉が通じず困っていないか」「寂しがっていないか」な

ど、心配が絶えません。気づかいで疲れ果てます。しかし、YE生が無事帰国して、しばらく経つと懐かしくなり、今頃どうしているだろうか、と、楽しかったことを思い出します。新しく子どもができた気分です。また、次回も引き受けようかという気持ちになります。YEは不思議なアクティビティです。

彼との別れは涙、涙

伊予三島法皇ライオンズクラブ

一柳 美枝子

昨年、YE地区委員を当クラブでお引き受けした時に、ホストファミリーを予感しておりました。当初は女性という条件付でしたが、快くホストファミリーをお引き受けいただいていたが、YE生がドイツの男性に決定したため、急遽ホストファミリーの変更を余儀なくされ、都合の良い家庭が見つからず、私のところということになったのです。

不安を抱えてのYE生の出迎えになりましたが、7月10日夜、好青年のセバスチャンを間近に見て不安も解消されました。当初は会話が通じ

ず、ストレスがたまってホームシック気味かと思われましたが、少しずつ生活習慣や食事の問題などが解決しひと安心。彼がラーメン好きと知ったのは、大発見でした。

3Z各クラブとの交流、例会訪問、卓球やレクリエーションバレー交流、地元高校生との交流などメンバーの協力、地元の人たちの優しさ、そういった人間味あふれる交流ができました。

ITの普及はホームシックなど無縁のものとし、本国の家庭やキャンプで知り合ったYE生とのメールの交換などなど、あつという間の15日間でした。8月15日、JR伊予三島駅で再会、送り出す際は涙、涙。素晴らしいホスト体験でした。



川之江中央LCとレクリエーションバレー交流会

ドイツからの風

川之江ライオンズクラブ

宇高 昭造

7月25日(土)朝、土砂降りの雨の中、前のホームステイ先、伊予三島から車に乗せてもらってやって来た。とても背の高いセバスチャン君は、大きな荷物を一番奥の部屋に入れるとにっこりした。はじめての昼食はベーコンと白菜のコンソメスープと、ウインナーや茹でたじゃがいも、ピザパイ、クラッカー、パン、ご飯など、バイキング風に並べてみた。来る前から食事を一番心配していたので、よく食べてくれて一安心であった。



越智会長よりバナーを贈呈



セバスチャン君と宇高ファミリー

27日(月)午後、妻の友人が和装で迎えてくれ、打ち水された庭を通り茶室に向う。お床には「清寂」のお軸に白い花が一輪。座椅子を勧められたがセバスチャン君はなんとか正座して、お薄を飲み干した。後で聞くと「素晴しかった」と喜んでいた。聡明なセバスチャン君のことだから、本物は一度の体験で十分に心に残るであろう。

その日の午後から4日間、川之江高校で、日本音楽、サッカー、書道、茶道、和太鼓、英語部などのクラブ活動に参加させてもらった。同世代との交流はやはり楽しかったようだ。校長先生が「うちの子たちも楽しく、良い勉強になった」と言ってくれた。

帰国後は、9月から大学へ行くものと思つて尋ねてみると、意外な答えが返ってきた。18歳になった男子は、軍隊か病院で9カ月間働く義務があり、彼は病院を選択しているとの事。一度学校の外に出して任務に付かせ、今後の進路を考えさせるのだろうか。それから大学へ行ったほうが、より深く考え、真剣に学べるだろう。日本の大学受験を思うとき、なかなか素晴らしい制度ではなからうか。

聡明で朗らかなセバスチャン君のこれからの人生が、少しでも豊かなものになることを祈りつつ、8月1日(土)松山へ向うのをみんなで見送った。

3度目となる ホストファミリー

徳島城山ライオンズクラブ

白石 光生

7月11日午前8時50分着、ヘルシンキ航空AY077便にて関空に到着。同便にてオーストリア1名、フィンランド2名、スロバキア1名の計4名を出迎える予定であった。フィンランドの2名はすんなりピック



Denisaさんと白石ファミリー

アップできたが、他の2名がいつまで待ってもゲートを出てこない。ほとんどの乗客が出て来てもない。南ウイングでスロバキア生を捜し当たったが、オーストリア生は依然不明。案内所に問い合わせ、調べてもらった結果、明日の便にて来日とのこと。この間およそ3時間。空港出発は12時近くになっていた。この間、ライオンズ関係者はホストファミリーの小生一人であった。

関空からの帰途は時差のせいか車で熟睡、帰宅するまで目を開けることもなかった。疲れているだろうと夕食後、シャワーの後すぐ寝ることを勧める。翌日、夜まで食事時間以外は睡眠。よほど疲れている様子。

YE生は日本語をまったく話せず



徳島城山LCの納涼例会を訪問

すべて英語、ある程度覚悟はしていたが、日本語は「こんにちは」もわからない。幸いにも嫁いだ娘が近くに住んでいたので通訳の労を依頼する。習慣も食生活も違う国からの来客。娘が一人できたような気持ちで、一つでも良い思い出を持って帰国することができるように対応した。

空手の経験があるとのことだったので道場に体験入門のほか、華道、茶道、三味線、結婚式の前写しなど多くの日本文化も経験させることができた。本人は文化より着物が着たいとの望みが強く、来日前から「舞妓になりたい」とメールのやり取りの中

でも言っていた。希望を叶えてあげようと京都のスタジオで舞妓姿の写真を書すと、宝物のように大事に持っていた。

滞在中のクラブ例会訪問は3回、徳島市長や徳島商工会議所会頭への表敬訪問も行った。

日本食が苦手で、特に魚はサーモン以外ほとんど食べず、肉食中心でせっかく作った料理も「ノー」の一言で、箸もつけない状態だった。平均寿命が70歳以下と聞いて、やはり食生活に起因していると思い、帰国前に子供に言うように「何でも食べないと長生きできないよ」とアドバイスした。

母国には「ウォッシュレット」がないうらしく、最初は戸惑っていた。また、プリクラが珍しかったようで、「こちらから輸出してビジネスにしようか」と言う、「お父さんは輸出だけで、ビジネスは私がする」などとしつかりした発言もあった。また自販機の多さにも驚いていた。

食べ物では家内が作ったチーズ巻きフライ(チーズを餃子の皮で包み揚げた物)、カルピスソーダがいたく気に入っていた。カルピスはもって帰らなかったようだが、重量の関係で断念した。また、箸は来日して初めて使ったので、最初は食べにくく苦



関空より帰国の途に

戦していたが、帰る頃にはとても上手に使えるようになり、滞在中に使っていた箸を大事に持ち帰り、帰国後も使っているようだ。

YE生は過去に台湾の女性、韓国の男性を受入れたが、今回が一番大変だったように思う。夫婦とも70歳で、やはり年を感じた。スロバキアでは、こんな年寄りの家で大丈夫かと心配していたのではないかと感じた。

見送りは小生と娘で、複合キャビネット指定のホテルで前泊、8月8日午前11時発ヘルシンキ航空AY 078便にて無事帰国した。なお、空港では荷物が重量オーバーとなり、一部を郵便局より発送するというハプニングもあった。

YE生のホストは 自分自身のよい思い出に

東かがわライオンズクラブ

渡辺 俊郎

このたびYE生のホストファミリーをして自分なりに思ったことは、日本の文化や歴史について色々と紹介してみたいと思っても、むしろ自分自身があまり知らないの、まずは自分が海外旅行に行ったならこうしたいと思えることを、実行しようと思いました。

まずは、我が家の食事と我が社の仕事。その次は地元の主産業・食・娯楽、特に海外から旅行に来て観光をするような名所ではなく、近くで金銭的にも負担のかからない場所を案内することにしました。

許婷婷さんは、特に犬が大好きで、我が家のマクラ(ドーベルマン)とコミュニケーションがとれて、言葉の障害もあまり気にせずに過ごすごことができました。我がクラブのメンバーが言葉の勉強にと辞書を貸してくれたものの、勉強嫌いが今更勉強するわけもなく、全然言葉が通じなくても大体のコミュニケーションは保てたと思っています。



許さんと渡辺ファミリー

台湾に帰国後、「日本の父さん、母さん、姉さん、それにマクラに会いたい」という許さんからの礼状と、日本滞在中に本人が撮った写真をたくさん送ってきてくれました。
非常によい思い出ができたと思っています。自分自身にとっても。



親睦パーティーでのケーシー君と平田ファミリー

今年も夏期YE事業の一環として、アメリカカリフォルニア州からケーシー・ラングレー君をホストファミリーの一人として受け入れ、協力をさせていただきました。7月8日には我が家において役員、委員の方々、ホストファミリーが集まり、ケーシー君の歓迎会を兼ねた親睦パーティーを開催しました。
我が家の受入れ期間中は、クラブメンバーの方々のご協力によりうど

妻と娘に感謝

丸亀ライオンズクラブ

平田 和則

今年も夏期YE事業の一環として、

アメリカカリフォルニア州からケー

シー・ラングレー君をホストファミ

リーの一人として受け入れ、協力を

させていただきました。7月8日に

は我が家において役員、委員の方々、

ホストファミリーが集まり、ケーシ

ー君の歓迎会を兼ねた親睦パーティ

ーを開催しました。

我が家の受入れ期間中は、クラブ

メンバーの方々のご協力によりうど

▲家族と共に(松浦)



▲広島にて(浜本)



ん打ち、海釣り、幼児の英語塾、ダンスパーティーや和太鼓の練習、さらにプラネタリウムや天文台の見学などさまざまな経験をさせてあげることができたと思います。

言葉の壁、食文化や国民性の違いなど大変なこともあるりましたが、妻と娘の多大な協力もあり、無事、務めを果たせホッとしているところです。松浦、浜本両ホストファミリーの皆様もお疲れ様でした。

ホストファミリーを経験して

板野ライオンズクラブ

東條 昭二

この夏、YE生の受入れに参加させていただいた。当初は軽い気持ちでホストファミリーをお引き受けた

ものの、来日生を受入れるに当たっては言葉の問題をはじめ心配なことばかりであった。

しかし、「案するより生むが易し」で、実際、我が家ではほとんど身振り手振りで最後まで通したが、言葉は通じなくてもお互いに言っていることは、ある程度理解しあえたし、食事に関しても多少の苦手はあっても大抵のものは喜んで食べてくれた。

特に江佳玖は板野LC会員とともに四国八十八ヶ所の第一番札所霊山寺から第二番札所極楽寺までの歩き遍路の後食べた、たらいうどんを気に入ったようだ。また我が家は妻と二人の老夫婦であり、20歳の江佳玖にとって居心地が悪くないか気になったが、彼女は「お父さん」「お母さん」と



江さんと東條ファミリー

私たちをととても慕ってくれ、私たちも孫のような感覚で彼女と接し、とても楽しい時間を過ごすことができて、いい経験になった。

滞在中、龍河洞や高知城、また板野LCのメンバーとしたバーベキューや、すいか割りの様子など写真好きの彼女はたくさん撮っていたが、その写真を見ながらたまには日本のことを思い出してくれたり嬉しいものである。

ホストファミリーの体験

土佐清水ライオンズクラブ

田中 信宏

我が家に来て来た韋于婷は21歳の台湾の大学生で、とてもかわい女性でした。料理が好きで、手作り料理を食べさせてもらいました。日本語は挨拶程度でしたが、漢字を書いたり、英語で話をするのができました。携帯電話の台湾語翻訳機能のお世話になったこともありました。家での食事の時は妻の手伝いをしてくれました。彼女が覚えた言葉「ご飯ですよ」準備ができるといつも私に言うてくれました。子ども達も独



韋于婷さんと田中夫妻

立し、夫婦2人で会話のない食事を送っていましたが、花が咲いたように楽しい21日間でした。時には餃子を作って食べさせてくれました。持参の台湾の高価なお茶も台湾風作法でご馳走になりました。

ライオンズのメンバーとは滞在中の例会日が1日しかなく、歓迎会・送別会を例会日以外に設定し、英語の話せる人、漢字を書いて質問する人、たくさん交流を体験したようです。例会の日はサマーキャンプの最終日で、キャンプを午前中で終わらせていただき、清水まで(5時間)のドライブを楽しみました。送別会では、彼女の作った餃子をメンバーに食べてもらい、また、メンバーの勤めている水族館でジンベエザメを

見せてもらうと、興奮していました。

平日は妻が担当、英語が少しできるので、愛媛県の内子町へ行って昔の町並みを散策し、楽しんだようです。8月には足摺祭りの前夜祭があり、それに向けて踊りの練習をしたり、当日は花火を見たり、出店で食事をしたりと、丁度いろいろないイベントがあり、たくさんの人と交流ができたようです。

帰国の前日は高知市内で1泊し、市内観光やショッピングを楽しみました。山と海しかない土佐清水でしたが、魚が好きと言っていた彼女その点では十分土佐清水を堪能して貰ったと思います。また、土佐清水へ来てください。

イタリア娘を受け入れて

坂出白峰ライオンズクラブ

内海 孝

今回のイタリア娘のマリアは質問好きで、時間に厳格な性格に閉口したが、情熱的で何にでも興味を示す意欲的な娘であった。

特に神社、仏閣、仏像、日本庭園等に興味津々。盛んにカメラのレン

ズを向け、帰宅後すぐにパソコンに向かい画像保存とコメント入力、そのこの質問攻めに往生したが、その熱心さには感心。

これまで何人かの外国人の若者をショートステイ等で受入れてきたが、1カ月という比較的長期間の受入れは初めてで、英語が苦手で会話に苦労した妻にとっては、食事の準備など「なんでも食べるよ。トライね」と言いながら、普段の日本食を一口食べては「ドントライク」。これにはまった。しかし、多くの人達の協力を受け、私たちマンネリ夫婦にとつて、忙しく刺激的な夏であった。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



最後の昼食は「すきやき」を!



レジェンファミリーと越智君

留学で得た経験を 今後を活用

越智健太郎

(東予ライオンズクラブ)

私は8月3日から24日までフランスに留学しました。フランスは日本の倍くらいの大きさがありますが、人口は6400万人程度で人口密度の低い国です。とても緑の多い国で、多様な人種が混在して暮らしている。

8月3日に関西空港に集合し、ドイツのフランクフルト空港を経由してシャルル・ドゴール空港まで約

12時間のフライトでした。機中では期待と不安でいっぱいでしたが、空港に着くと私のホストファミリーが「KENTARO OCHI」というカードを持って待っていてくれました。

ファミリーの名前はレジェンファミリーで、お父さんはエマニュエル、お母さんはミシェリス、私と同じ年の女の子がアナベル、彼女の兄がニコラです。アナベルは去年日本に留学していたこともあり、日本語が少し話せ、私はフランス語がほとんど話せないもので、いつも彼女に助けてもらいました。レジェンの家はパリから南に車で約2時間、ロモランタンという町にあります。

最初の4日間はロモランタンを案内してくれ、近くの町にあるシャンポール城がとても大きくきれいで感動しました。ロモランタンは都会ではないが、とてもいい町でした。少しフランスで過ごしてみても、日本との違いをたくさん感じました。フランスは夜9時くらいまで明るくて、夕食も9時頃食べることが多かった。8月はバカンスシーズンでこちらの両親も5週間休みでした。フランス人は時間を余り気にせず、のんびりと1日を過ごしていたのが印象的でした。

5日目からニコラがアルバイトをしてるFORAGEというリゾート地に旅行にきました。

ここには家族で毎年来ていよう、お父さんの友だちもたくさんいました。スポーツをしたりビーチで泳いだり、そして夜になるとパーティー

が始まり、皆で飲んだり喋ったり踊ったりしました。旅行の帰りにお父さんの妹の家に行きました。その家は大きな家でハンモックにプール、私がイメージしていた外国の家そのものでした。近くに川があり毎日泳ぎました。

最後の3日間はパリに行きました。エッフェル塔や凱旋門などの有名なところ、またフランス人しか知らないような場所にも連れて行ってくれました。パリを散策して気付いたことは、同じ首都といえども近代的な東京とはかなり違い、高い建物がなく昔からある西洋の建物が立ち並び、



お洒落な街でした。

今回、日本から一歩外に出ることによって、日本には発見することのできない、また日本人が忘れてしまっている事柄を見つけ、感じ取り吸収することができ、物事に対する視野を広げることができたと思います。今回の留学で得てきたものを、今後の生活において最大限に活用し、積極的に外国の方と交流を図り、国際人としてさらに成長していきたいと考えています。

このような貴重な経験をする機会を与えて下さったライオンズクラブの皆様、また関係者の方々に深く感謝いたします。

森と湖の国 フィンランドでの経験

矢野 京 みやこ
(今治ライオンズクラブ)

私は今までホームステイをした経験がなく「フィンランドの人にとって、日本人はどのようなイメージなのか」「私を歓迎してくれるだろうか」「フィンランド人の生活はどのようなものなのか」と不安でいっぱいでした。しかし、空港でホストファミリーの方と会ったとき、とてもやさしそうな笑顔で声をかけていただき、「フィンランドへようこそ」という言葉で、私の緊張はすぐに解けました。

私が3週間お世話になったホストファミリーの家は、マントハリオという小さな町で、首都のヘルシンキから車で3時間ほど離れていました。私のために用意された部屋の窓からは森や湖、日の出も見える自然にあふれた素敵な場所でした。

ホストファミリーの方々は、以前、日本に住んでいたことがあり、日本にとっても関心を持っていて、私の住む今治の特産品や有名な場所などを紹介すると、しまなみ海道に一番感動をしてくれました。



ホストファミリーと私

ホストファミリーとマザーは少し日本語を話すことができ、私もフィンランド語を少しずつ勉強し、覚えたてのフィンランド語を使うと本当に喜んでくれました。

ホストファミリーは音楽教師で、私がピアノで「崖の上のポニョ」のテーマソングを弾くと、とても気に入ってくれ、映画を観るのが待ち遠しいと言っていました。ジブリ作品はフィンランドでも人気があり、日本のアニメや漫画、キャラクター、本など私が思っていた以上に浸透しており、驚きと喜びを感じました。

スーパーへ買い物に行くとペットボトルや空き缶をリサイクルする機械があり、お金と換えることができるのです。どのスーパーにもあり、

レジ袋は買うことになるのです。リサイクル技術やエコに対する意識がとても高く、水も大切にしており、お風呂の基本はサウナです。

ホストシスターとは湖で泳いだり、お土産に持っていた折り紙やお手玉などをしてすぐに仲良くなることができ、日本の伝統的な遊びも伝えることができました。湖で泳ぐのはこの地域の子どもたちの遊びのようですが、私にはとても冷たく感じられたのですが、子どもたちは水が残っていても泳ぐそうです。

一番楽しみにしていたのは、ムーミンランドへ行くことで、とても遠かったのですが、島1つが全部ムーミンランドになっていて、想像以上に大きく夢の国のように、1日中いても飽きないくらいで、とても感動しました。

ホストシスターが通う小学校と高校へ行きました。小学校では美術の時間を1時間もらい折り紙を教えました。女の子はもちろん、男の子まで熱心してくれて教えがいがありました。高校は同学年のスウェーデン語、



英語、音楽、歴史の授業に参加しました。フィンランド語での授業だったので、余り理解はできませんでしたが、英語の先生は授業中、ほとんどフィンランド語を話しません。とても語学熱心でフィンランド語、スウェーデン語、ドイツ語、ロシア語、日本語などの語学授業がありました。

一番心に残っているのは、家族で過ごす最後の日にみんなで習字をしたことです。ホストファミリーの方は、習字を見たことがなく、私が書いてみせると驚いており、挑戦してみたいと言ってくれたので皆で一緒に書くことになり、これから練習して上手になりたい」と言ってもらえて、本当に嬉しかったです。

今回の3週間の経験で視野が広くなり、この経験を生かしていきたいと思っています。

ドイツのテキスタイル デザインに刺激され

大野 美砂 みさご
(高知ライオンズクラブ)

私はライオンズクラブのYE派遣生として、ドイツの北部地方に行ってきました。

この3週間にはたくさんの人たちとの出会いがあり、驚きがあり、少しでも知れませんが、ドイツの文化を学べたと思っています。とても楽しく、特別な時間を過ごすことができました。このような機会を与えていただいたことに、とても感謝しています。ありがとうございます。



ドイツのライフスタイルで、私が日本と違うと感じたところは、とても時間と人がゆったりしていることでした。お庭も広く、夕食やアフタヌーンティーを庭でとることも少なくなく、とても素敵なことだと感じました。食事とてもおいしくて、日本から持ってきたカップ麺は全く必要ありませんでした。

森がすぐそばにあり、ホストファミリーが幾度も連れて行ってくれました。夕暮れの森はとても幻想的で、スモークがかった森に光が射し込んでいて、とても美しかったです。

観光はハンブルク、リューベック、ノースシー、ブレーメンと数え切れないほどたくさんところに連れて行ってもらいました。ノースシーは引き潮になると約6時間かけて海の水が引いて広大な干潟が現われ、また満ち潮になると約6時間かけて海水が戻ってくるという不思議な海で、干潟を歩くことができました。肌ざわりがとても

水が引いて広大な干潟が現われ、また満ち潮になると約6時間かけて海水が戻ってくるという不思議な海で、干潟を歩くことができました。肌ざわりがとても



ノースシーの干潟にて

まったりしていて気持ちが悪かったのですが、ホストファミリーから肌にいんだよと教えてもらい、ずんずん歩くことができました。

現在、私は大学でテキスタイルデザインという布を作りだす勉強をしています。ドイツのテキスタイルミュージアムに行かせてもらいました。たくさんさんのアーティストたちが作った作品を見ることができ、とても刺激を受けました。歴史的なテキスタイルの機械や織機も見ることができ、私にとって興味深いものであり、もっとテキスタイルデザインを学びたいという意欲をかきたてられました。

私は2つのホストファミリーと過ごすことができました。ホストファミリーとの交流には、やはり言葉の壁がありました。たくさん話しかけてくれました。そして、いつも私の居やすい環境を作ってくれて、なかなかうまく喋ることのできない私を助けてくれました。本当に優しくて、日に日に打ちとけあっていることを感じるようになりました。それがとても嬉しかったのですが、でも時間に限りがあることを淋しく感じました。第2ホストファミリーとお別れのときは我慢できましたが、第1ホストファミリーとお別れるときには、涙を止めることができませんでした。いつか機会を見つけて、どちらのファミリーにも絶対に会いに行きたいと思っています。

3週間余りのドイツでのステイは、私に素晴らしい経験をさせてくれ、人と繋がり合うことの素晴らしさを実感させてくれました。そして、これからの私にとって、とても大きな影響を与えてくれました。

これからもっともっと語学、テキスタイルの勉強をしたいと思っています。こんな素敵なチャンスを与えて貰えたことを、とても嬉しく思っています。

本当にありがとうございました。

2009年高知ワークショップを終えて

高知とさみずきライオンズクラブ

ライオンズクエスト特別委員会 委員長 北 泰子



北川渉ライオンズクエスト運営委員長挨拶

7月25日(土)、26日(日)の2日間、南国市のホリデイ・イン高知において公募型ワークショップを開催しました。今回、高知では初の高知市内5ライオンズクラブ(高知中央LC・高知鏡川LC・高知東LC・高知北LC・高知とさみずきLC)合同のアクティビティとして行い、高知県教育委員会、高知市教育委員会の後援をいただき、教育委員会からも参加者を派遣していただくことができました。

た。参加者は教諭10名、教頭2名、養護教諭3名、講師1名、教育委員会指導主事2名、ライオン7名、その他1名の合計26名です。

1日目は開会式に引き続き、10時からライオンズクエスト認定講師の北山敏和先生によってワークショップが開始されました。午前中は「集団づくり活動」、「ライフスキルの共通理解」、「若者像の理解(ブレインストーミング)」が行われ、昼食後「ライフスキル授業の構造」、「プログラムの理解(シグソ式)」、「スキルを学ぶ意義」と続きました。

2日目は9時から「思春期とライフスキル」、「授業準備をした後」授業1・本当の自信をつける方法、午後も引き続き、「授業2・肯定的に受け止め行動する」、「授業3・ASK」、「授業4・目標を設定し成長する」題目で、参加者が先生役になったり生徒役になったりしながら、ライオンズクエストプログラムの内容、授業方法、授業を進める上での要点を学んでいただきました。



ライフスキル授業の構造

高知県の教育委員会から参加された先生は「学校現場に有効に働く研修であった」と感想を述べています。また私立中・高等学校のM先生は「楽しかった!」これが今回の講習に参加させていただいての率直な感想です。ライフスキルって何? というところから始まった今回の講習でしたが、わかりやすい解説と実践であったという間の2日間でした。ぜひ授業に取り入れてみたい」と語っています。T先生は「多くの中学生が今直面している問題点の解決のためにとっても有効だと思われます。同じ内容を段階的に訓練することによって自然にスキルが身に付いていくようなプ

ログラムになっているのがすばらしいと思います」と述べ、U先生は「2日間にわたってライオンズクエストプログラムについて学んできたが、現在の生徒たちの様子からみれば、本プログラムは、彼らの人生に直結して役立つのではないのかと思われる。非常に有意義ではないかと考えられる。私も、研修を受けた教師として、特にコミュニケーションなどが苦手な生徒たちに積極的にアプローチをし、彼らがいやすいクラスを作っていきたいと考えている」と感想文に書いていただきました。

また、徳島から参加された中学校の養護教諭K先生は「私が知っていたライフスキル教育は、断片的な一部分を指す教育だと感じていたので、もの足りなさや不満足感を抱いていました。ところが、ライオンズクエストのライフスキル教育はこれまでのじれったさを吹き飛ばし、正にこれがライフスキルだと十分納得のいく教育プログラムだと実感しました。生きていく中で必ず出合うトラブル、迷い、悩みに対して、どう考え、対処するかを学んでおくことは、激変する社会を生きる子どもたちにとって非常に重要だと思えます。誰もが不安を抱えて生きている中で育っている子どもたちは、学力をどう生か



すべきか、どうすれば学力を生かせるのか確証を得られず、不安な毎日を送っています。このプログラムで、子どもたちに「人生を創る力」をつけさせたいと思いました」と語っています。

数の先生方の参加を得、また徳島南ライオンズクラブの理解を得て徳島での普及にも貢献できました事を嬉しく思います。
今後このプログラムを待っている子どもたちと先生の為に努力を続けていきたいと思っています。

K先生と共に参加された徳島南ライオンズクラブ会長阿部正さんは「今回の研修では、命を守り、苦難を乗り越え、生き延びる方法を仲間達と楽しく学びながら修得させるためのプログラムを教えてくれました。まさに「思春期のライフスキル教育プログラム」です。今後、このプログラムを徳島南LCに持ち帰り、教育者、父兄、また地域の人たちにも広くアピールし、賛同してもらえよう頑張りたいと思います。日本の将来は、このプログラムの活用に懸っています」と感想を述べられ、ライオンズクエストプログラムの普及活動に力を入れていくと熱く語ってくださいました。



修了証を手渡され記念撮影

2度目のワークショップを開催

今治サーチングライオンズクラブ

ライオンズクエスト特別委員会 委員長 野間 典子

昨年10月に続いて、今年は夏休み中の8月3日(月)、4日(火)に今治で2度目のライオンズクエスト・ワークショップを開催いたしました。

前回と同様、委員が手分けをして市内の学校に足を運び、校長先生に何度目かになるライオンズクエストの説明と案内を致しましたが、夏休みには思いのほか種々の研修が入っており、なかなか2日間の日程が取れない中、校長1名、教頭3名を含む教師23名、スクールカウンセラー1名、クラブメンバー1名の計25名の参加がありました。

今回の講師は岡松佐和子先生で、穏やかな運び方ですが、参加者からの質問に対して的確に答え、授業での具体的な活用方法を示されるなど、日本版ワークショップテキストの作成に携わったというだけあって、経験はあまりないはずの年齢なのに、深くライオンズクエストを理解されている方なのだと感じられる場面が多々ありました。

ワークショップ後のアンケートで



参加者はグループに別れての学習



も「すごく学習されている」とわかる講師の「ソフトな雰囲気ながら適切な指導」で「安心して研修」できたと複数の回答があり、教育に携わるプロの目から見ても指導力の確かさを感じたのが分かりました。また同アンケートで「学校にこのプログラムを取り

入れたい」と思っただけの方々が2名いたこと、研修後、ライオンズクエストプログラムを「教育的に意味あるものと強く意識」していただけた参加者が多かったことは、この先のライオンズクエストの活動を後押ししてくれるものです。

また、お忙しい中、田中節太2Rリジョンチエパソン、北川渉地区ライオンズクエスト運営委員長、越智節也RCA、石川哲三2R青少年委員が足を運んでくださり参観していただきましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

各種の資料を使つてのワークショップ授業



校内型ワークショップを終えて

徳島ライオンズクラブ

ライオンズクエスト委員会 委員長 米川 孝宏

徳島ライオンズクラブはライオンズクエスト事業の実現のため、いろいろな事前活動を実施して参りました。その一つは東京で開催されたワークショップに参加する教師への経費支援、更に「思春期のライフスキル教育プログラム」を自ら理解するため

に鴨島ライオンズクラブが開催したワークショップへの体験参加。そして、クラブメンバーに理解を求めるために例会におけるワークショップ



参加者の激励に訪れた武久ガバナー

の模擬実演。そしてJ-I-Y-Dをはじめ336-A地区のライオンズクエスト運営委員長、副委員長への当クラブの事業実施に対する支援要請と他地域の実施事例の調査など、昨年は事前準備に追われた1年でした。

特に、私はライフスキル教育が学校挙げて一斉に導入が期待できる「校内型ワークショップ」の開催に強い関心を持っていましたので、学校側のワークショップ受け入れ承諾を得るために事業の趣旨や成功事例等の情報提供を行い、校長先生との折衝に当たりました。

しかし、お願いしながら先生方がクラブ活動をはじめとする課外授業が私の想像した以上に多く、多忙な状況の中で全員の先生方が同じ日程でワークショップに参加することの難しさを認めざるを得ませんでした。けれども、先生方が熱心に職員会議を重ねて頂き、考えられる疑問や課題を率直に私たちに投げかけ、私たちも理事会においてその対応策を前向きに検討しました。その結果、今



時には受講生が講師となって進行する

年ワークショップに参加できない先生は、他地域で開催されるワークショップへ派遣し、そのための経費支援や各開催地のライオンズクラブとの折衝によって9名の先生方の受け入れが決定しました。新しく転校して来られる先生方の対応としては、来年度もライオンズクエスト事業を継続し、学校挙げて一斉にライフスキル教育が導入できるような配慮をすることで、校長先生をはじめ幹部の先生方のご理解を頂き、こうして校内型ワークショップの開催が決まりました。

8月17日(月)、18日(火)の両日、徳島市南部中学校に青少年育成支援フォーラムからライオンズクエスト認定講師寺本之人氏を招き、28名の南部中学校教師に対して校内型ワークショップが開催できました。

当日は早朝より徳島ライオンズクラブのメンバーと南部中学校の教師で会場づくりを行い、午前9時からワークショップを始めました。午前の授業が終了し、昼休みを利用してご出席頂いた武久一郎地区ガバナーから激励のお言葉を頂き、全員で記念写真を撮りました。

両日とも寺本講師の軽快な運営とスピーチの中、参加した先生方全員の熱心で活発な学習態度を目の当たりにし、生徒達への実践教育が近くにされることを確信しました。



久しぶりに生徒になって!



徳島市南部中学校では、8月17日と18日にライオンズクエストのワークショップ実施され、28名の教職員が受講した。当日参加できない者は、別の日に他県のワークショップに参加し全教職員が受講した。

受講して

「思春期のライフスキル教育」の実践

南部中学校教師 生長 まち

する学級、ライフスキルの手法を取り入れて人権学習をする学級とに別れた。



感情のコントロール、意志決定スキル、ASKなどの授業が行われ、掲示物、グループの人数、発表の用紙等に工夫が見られ、教師の個性がよく表れているように思われた。生徒は授業に生き生きと参加し活動しており、教師とのロールプレイに拍手や歓声が起っていた。ライフスキルの授業を受けた生徒は「楽しかった。前向きな考え方を学んだ。自分は後ろ向きであるために、今後前向きな考えができるように、日常でスキルを使いたい」と話していたことが印象に残った。

第2回坂出ワークショップ「公募型」を開催

坂出ライオンズクラブ

ライオンズクエスト運営委員 河津 學

坂出ライオンズクラブでは8月22日(土)、23日(日)の2日間、坂出市民ふれあい会館でライオンズクエスト認定講師の北山敏和先生による公募型ワークショップを開催しました。教員等教育関係者22名、ライオンズメンバー5名が参加し、初参加の25名に修了証が交付されました。

第1日目は開講式で秋山昇坂出ライオンズクラブ会長などの挨拶に引き続きワークショップの概要、望ましい集団づくり・今どきの若者像の長短所を班毎に図化、昼食後はライフスキル学習とその指導法・班毎にプログラムの読破。第2日は参加者が4班に別れて模擬授業を実施し、その反省と意見交換を行いました。振り返りとワークショップを受講しての感想・意見、そして最後に北山先生より修了証が手渡されました。

《受講者の感想》

●最初は何となく参加した感じだったが、日程が進んでいくうちにどんどん引き込まれた。そして、今



ワークショップ風景

までの対応や場面を振り返り、こうすればまた違った方向に導くことができたかもしれないと思われた。生徒たちには上から言っても興奮しているなかでは理解できないが、前もってこのような学習をしておけば、本人の中で答えを出し対応していく力となる。生きる力を多くの若者につけていってもらいたいと考える。

●素晴らしいスキルだと思った。と

ても分かりやすいワークショップだった。

●最初は受身的な研修でしたが、内容がとても素晴らしく、かつ活動的で時間の経つのを忘れるくらいだった。このプログラムを今後実践していくことが、自分がこの研修会に來た使命だと思っている。

●このようなワークショップがあることを友人から聞いて、初めて参加しましたがもっと早く知りたかったと思います。友人のお陰で、今日、参加することができましたが、もっと広報をしていただけると参加しやすいと感じました。

●系統的によくまとめられたプログラムなので熟読して、楽な気持ちでやってみたいと思います。

●学力と同じで、どうしてライフスキルを教えるなんて……教えるべきことなのかと迷っていましたが、形式的な学習ではなく、スキルを学ぶことを入り口に心も育てられるプログラムなのだと実感しました。是非、取り入れていきたいと思っています。

●本校(中学校)全体の教師が、勤務校にて校内型のワークショップを本年度中に受講できると良いのになと思いました。

●体験型のワークショップで楽しい

研修でした。学校現場でさっそく使えそうなものを取り入れて実践したい。

●ライオンズクラブの方々には、会場の準備など本当に良くしていただき有り難うございました。ぜひ今回学んだことを、今後関わる生徒たちに指導していけるようにしたいと思います。

●教員でない私にとっては模擬授業は抵抗がありました。が、グループで考えることがとても楽しかった。



修了証を胸に講師と一緒にパチリ!!



西子湾獅子会の会長引継会

私は去る6月25日、台湾の結盟クラブ西子湾獅子会と翌26日に友好クラブである華興獅子会の新旧会長引継会(台湾では会長交接典礼という)に招待を受け、妻同伴にて参加しました。

活力あふれる台湾獅子会の 会長引継会に出席して

高松西ライオンズクラブ

4R-2ZC 平賀 将則

結盟以来34年、毎年相互訪問を続け固い友情で結ばれた西子湾獅子会は台湾の南玄関高雄市にあります。鉄鋼、造船、化学等の重工業と国際貿易港で有名な台湾第2の都市で、また華興獅子会は先端企業の集中する新竹市の北隣りの竹北市にあり、台湾の大動脈の新幹線、高速道路、国道が通り、近年著しく発展しています。

今期、華興獅子会の会長に就任された田炳坤氏の娘さんが5年前にYEで受入れたのが縁で、西子湾獅子会と華興獅子会が兄弟クラブの結盟を行い、わがクラブと友好クラブのお付き合いをしている関係で出席しました。

引継会は両獅子会とも大変盛大で、地区ガバナー(總監)、地区役員をはじめマレーシアの結盟クラブ、スポンサークラブ、国内の結盟・友好クラブ、ゾーン内各クラブから大勢の獅友が参加し、まさに典礼にふ

さわしい豪華さに圧倒されました。

晩餐会の円卓で同席となった地区ガバナーに「素晴らしい会ですね」と申し上げると、「はい、この会は重要な会で、前会長の功績を称え、新会長には誇りと責任を自覚させる晴れの舞台なのです」と言われ、「真誠奉獻・獅友和諧快樂」のスローガンを掲げた引継会の盛況に、台湾獅子会の活力を見る思いがしました。

お国柄もあって、日本の引継会とは比較することはできませんが、最近ともすれば安逸に逃れ、往年の精彩を欠くわが国のライオンズに複雑な思いが交錯した2日間でした。

小松島西高生と初の交流会

小松島ライオンズクラブ

会長 細田 瞬治

本年度の会長スローガン「一期一会」に基づき、小松島西高校との交流事業(料理実習)を10月4日に実施した。小松島西高校は徳島県内唯一専門高校(商業・食物・生活文化・福祉科)で、平成19年度より3年間文部科学省の指定を受け「目指せスペシャリスト(スーパー専門高校)事業」に取り

組んでいる。小松島西高校ではライフステージにあった栄養や食事の取り方について、地域の方々に対する啓発活動を行うとともに、研究を深めながら生徒と地域の相互理解を図っている。

当クラブとしては、県内有数の専門高校である小松島西高校と交流を



華興獅子会の会長引継会



生徒の指導を受けながら調理

図り、ライオンズクラブの活動を広く推進するとともに、地元高校の活動状況を知り、種々の振興、発展に協力し、しいては小松島市の振興の一助となる事業として取り組むことにした。

当日はライオンズクラブから15人、学校から学校長や食物科の4人の先生と食物科3年生6人が参加した。地元の野菜や魚介類をふんだんに利



できあがった料理の試食

用し、生徒が考案した高齢者向けのソフト食や生活習慣病予防食の調理実習を行った。メニューは主食十六穀米と麦飯栗おこわ、副食には松茸、鰻等の入ったどびん蒸し、太刀魚の金糸あえ、冬瓜のゆずみそ添え、鱈の幽庵焼、蓮根まんじゅうなど7品を、生徒たちの指導を受けながら2時間かけて調理した。生徒たちの講評を受けた後に、楽しく交流しながら全員で試食し、舌鼓を打った。

今後も小松島西高校との交流を通じて、青少年の育成活動を推進していくことにしている。なお、この日の交流の様子は、徳島新聞10月9日朝刊に掲載された。

薬物乱用防止教育認定講座を開催

環境保全・保健福祉委員会委員長 本庄 一雄

11月14日、午後1時より徳島グランドホテル偕楽園で主に8R、9Rを対象にして麻薬・覚せい剤乱用防止センターとライオンズクラブ国際協会336-A地区の主催により薬物乱用防止教育認定講座を開催し、57人が受講しました。

開校式に引き続き、基礎講座では「医学知識」「薬物乱用と身体への影響」、専門講座では「行政事情」「薬物犯罪等の現況」「薬物乱用防止教育の現状」「県の取り組みと課題」等、実践講座では「ライオンズクラブ国際協会薬物乱用防止の実践活動」など約4時間の講義を受けた受講生には、閉校式で武久ガバナーより修了証が手渡されました。

また、11月21日には1R、2R、3Rを対象にウェルピア伊予でも薬物乱用防止教育認定講座が開催され、愛媛県内の104人が受講する予定です。

本講座は3年前から各地で実施されており、全国のライオンズクラブも「ダメ。ゼッタイ」を合言葉



に多くの青少年や地域の人々に訴えており、青少年育成に成果をあげています。

しかし、認定講師の資格を取得しても地域や学校などの薬物乱用防止教室で講師を務めているかという点、実施しているのは非常に少ないのが現状です。せっかく取得した資格です。クラブの事業として積極的に薬物乱用防止教室などを開き、青少年の健全育成に寄与することが望まれます。



高知桜LC結成15周年記念例会

2008～2009年度会長 山崎 美恵子

春の訪れを感じる2009年3月8日、「三翠園」においてご来賓の方々、地区ガバナーはじめ地区役員の方々、姉妹クラブであります韓国ソウル美星クラブの皆様、ブラザークラブの皆様の参加をいただき、結成15周年記念例会を開催しました。

記念例会の約1年前から吉本千恵実行部会長を中心に、当クラブ発足以来の理念を中心としその特徴を生かした記念事業や記念例会にしようと会員一同が努力してきましたので、当日は緊張した会員の表情がむしろ爽やかさを感じさせてくれました。

ご来賓の方々から温かいご祝詞をいただき15周年の歴史を感じると共にライオニズムの原点に立ち返ることを再認識しました。ご参加いただきました皆様方との和やかな雰囲気やソウル美星ライオンズクラブ会員のチマチョゴリと和服の民族衣装による交流は会場に華やきを与えてくれました。見事に予定時間どおり終了し、全員によるライオン・スピリットで再び会場が盛り上がり、引き



続いて上杉清仁記念コンサートでは「浜千鳥」など参加者に共感をあたえる曲目で静かな時が流れていきました。

祝宴は会員による仕舞い「高砂」につづいてアトラクションとして会員

提供による鮪の解体実演などがあり、アリランを参加者全員で合唱し終始なごやかに進行し友情の輪を広げることができました。

この15周年記念例会にご参加くださいました各位、ご支援ご協力いただきました関係各位に心より感謝し厚くお礼申しあげます。

徳島西LC結成45周年記念例会

会長 横山 定由

10月18日、徳島グランドホテル偕楽園にて、結成45周年記念例会を開催いたしました。記念例会にはご来賓として原秀樹徳島市長、武久一郎336-A地区ガバナーのご臨席をいただき、心のこもったご祝辞を頂きました。出席者は約190名、遠方からは姉妹クラブの和歌山西ライオンズクラブの方々を含めたくさんのブラザークラブの皆様の出席をいただき、例会が盛大に行なえたことを深く感謝しております。



横山会長のごあいさつ

《記念事業》

- ・鏡桜の里づくり
- ・わんぱーくこうちゅーへのアンパンマンシリーズベンチの贈呈
- ・禁煙の啓蒙活動
- ・DVボランティアへの活動資金贈呈
- ・災害救援連絡車の助成

（四国2009第66巻）に未掲載であったため報告が遅れましたことを申しそえます

クラブに感謝状をお贈りし、またチャーターメンバー及び永年在籍者を表彰いたしました。祝宴はジャズバンドやラッキー抽選会で盛り上げ、和やかな雰囲気のうちにお開きにすることができ、姉妹クラブやブラザークラブと十分な親睦を図ることができたと思います。

クラブ、会員同士が協力し合い、ライオンズマンとしての自覚を持って、地域社会に貢献できるよう最善の努力をしてみたいです。最後になりましたが、本式典にご出席いただいた方々、ご支援ご協

力をいただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

《記念事業》

- ・眉山山頂に「眉山の鐘」贈呈
- ・徳島県腎臓病患者連絡協議会へ金一封
- ・臓器移植推進キャンペーン



「眉山の鐘」の除幕式

土佐清水LC結成45周年記念例会

土佐清水LC会長 吉名 征郎

10月18日、秋晴れのもと、45周年の記念すべき日を迎えました。約1年前から総務委員会を立ち上げ、手作りの記念すべき日にしようと汗と時間をかけ、経費の節減をモットーに取り組みました。

式典には杉村市長、広田一参議院議員等の来賓をはじめ招待者を含め総勢161名のご出席をいただきました。韓国の釜山五六島LCからも姉妹提携31周年記念として、会員の奥様を含め総勢14名の参加をいた

き、大会に花を添えていただきました。

式典進行に当たった幹事は3カ月前から進行役の練習を重ね、リハールでは言葉のトーンの注意を受けるなど厳しい訓練の甲斐あって、スムーズに時間通りしかも厳粛にして和やかなムードで進行ができました。

祝宴は皆様に楽しんでいただけるようにと清水の特性を生かした様々な手作り企画をしました。全員に当たるラッキーカードは会場の皆様を一体とし、後になる程良くなる景品は会場に緊張と興奮を与えました。その上に、足摺沖で獲れた魚のトロ箱・伊勢エビの掴み取りは会場を沸



「森の意思待つ」は会場を盛りあげた

かせました。また、

会員による「森の意思待つ」(森の石松)に扮しての演技は大いに会場を盛り上げました。

料理についても地元の物をと、新鮮な美味しい魚と地元の料理、また手作りのメチカ節も会員より提供されました。

最後に、記念式典にご支援ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

《記念事業》

- ・市内の小・中学校へ防犯用具を贈呈(サスマタ2本・催涙スプレー5本×13校)
- ・血圧計を市役所玄関に設置
- ・ライオンズ公園「木木の森(ぼくぼくのもり)」の整備
- ・LCIFへ金一封
- ・高知県ライオンズクラブ骨髄バンク特別委員会へ金一封
- ・高知県ライオンズクラブ献眼特別委員会へ金一封
- ・公益社団法人「高知県森と緑の会」へ金一封





高知北LC結成25周年記念大会

高知北LC会長 高橋 光男

10月25日、三翠園ホテルにて駐日

モンゴル特命全権大使夫妻、高知県知事等のご来賓、山地336複合地区協議会議長、武久地区ガバナーはじめ宇高第一副地区ガバナー、三谷・西園寺・西原・荒瀬・高岡の地区名誉顧問、地区役員・委員、姉妹・ブラザークラブの皆様約300名をお迎えし、我がクラブ会員にとって印

象深い大会となりました。

また、式典後に外務省の後援を得て開催した「モンゴル留学生交流事業15周年記念式典」では、第1期留学生サロール(当時11歳)と同級生6名をウランバートルから招き、受入家庭との感動の再会、幼い夢を実現し駐モンゴル日本大使館の職員として日蒙の架け橋として活躍している彼女の成長ぶりをご参加の皆様にご披露いたしました。

祝宴では、各クラブ会員とモンゴルの方々との交流も図って頂き、我がクラブ自慢のバンド「スイートライオンズ」の素敵な演奏や、プロを招いての「ボウリング大会」の表彰、ラッキーカード抽選等に大いに盛り上がり、橋本6R-RCのライオンズローアでつつがなくお開きとなりました。ライオニズム昂揚に向け新たな一歩を踏み出しましたので、今後とも宜しくお願い致します。

《記念事業》

・J-R高知駅前情報発信館(龍馬伝バビリオン)壁面大型観光案内板設置

寄贈

- ・モンゴル小学生2名短期留学招聘(15年継続事業)
- ・特定非営利活動法人高知こどもの図書館へ書籍用布袋贈呈
- ・高知北ライオンズ杯ミニバスケットボール記念大会
- ・青少年育成国際交流基金チャリティコンサート開催(12月13日・いちむじん)
- ・高知県ライオンズクラブ 献眼特別委員会へ協力金
- ・高知県ライオンズクラブ 骨髄バンク特別委員会へ協力金

協LC結成45周年記念大会

協LC会長 鎌田 生雄

10月4日、当クラブ会員の経営する結婚式場・玉梓にて結成45周年

記念大会を開催しました。当日は姉妹クラブである北海道の静内LCより7名、洲本LCより13名、武久一郎ガバナーをはじめライオンズ関係の来賓7名、スポンサークラブの池田LCやブラザークラブから21名の方々のご出席をいただき盛大に式典を行うことができました。

鎌田会長の開会ゴングに始まり式典は進み、牧田美馬市長、武久地区ガバナーより先輩諸氏の奉仕活動に対して、個々に具体的な褒めのお言葉を頂戴し、今後更なる発展を期す決意を新たにいたしました。

今回の周年記念は実行委員会で議論し、クラブ自体が今日まで発展し続けたことを会員同士が喜び合い、50周年への飛躍とする目的で企画い



たしました。記念大会は小規模にはなりましたが、それなりの成果を得ることができました。

《記念事業》

- ・ライオンズの森の整備
- ・美馬市にAEDを寄贈



協町の郷土芸能「三味線餅つき」



高知鷹城LC結成50周年記念大会

高知鷹城LC会長 海老塚和秀

私たち高知鷹城ライオンズクラブは去る10月11日、高知県民文化ホールにて結成50周年記念事業発表会、記念式典を、また、会場を高知新阪急ホテルに移し祝宴を、武久地区ガバナールをはじめキャビネット、地区役員、来賓各位、そして、県内多数のブラザークラブの皆様のご出席のもと開催することができました。

この度の結成50周年を迎えるに当たり、私たちはこれからのライオンズクラブの社会奉仕活動はいかにあるべきかの真摯な議論の中から「高知が明るく元気になりますように」という大きな目標を掲げ、そのためのアイディアを地元新聞紙面全面を用いて広く県民から募集。寄せられた中から最終選考に残った8つのアイディア

を記念事業発表会で発表し、その結果、3つのアイディアが選定されました。今後、それらの実現に向けアイディア提供者とともに会員一丸となって取り組んでまいります。

この度の記念事業を通して、私たちはこれまでの「してあげる」から「いっしょにしよう」という人々と協働するこれからのライオンズクラブの活動のひとつの姿を見いだしたかのよう感じます。

私たちは会員の絆をさらに深め、次の100年に向け一層精進していく所存です。

《記念事業》

- ・「高知が明るく元気になりますように」事業



- ・高知県に高知城模型一基寄贈
- ・LCIFに1000ドル寄贈
- ・高知県ライオンズクラブ 献眼特別委員会へ協力基金
- ・高知県ライオンズクラブ 骨髄バンク 特別委員会へ協力基金

謹んでお悔やみ
申し上げます

■物故
会員■

①氏名・享年
②LC名
③入会年月日
④没年月日



①田中 邦雄(86歳)
②4R-2Z 高松東
③1968年10月 8日
④2009年 5月23日



①池川 公一(72歳)
②7R-2Z 高知安芸
③1997年
④2009年 5月 4日



①細川 昭典(80歳)
②9R-3Z 阿波
③1996年 8月22日
④2009年 4月27日



①吉崎 忠重(79歳)
②8R-1Z 徳島南
③1973年 3月24日
④2009年 4月22日



①間嶋禮次郎(93歳)
②4R-3Z 長尾
③1964年 4月17日
④2009年 4月19日



①小松 英雄(58歳)
②7R-1Z 高知鷹城
③1986年 4月10日
④2009年 7月13日



①松田 直子(74歳)
②3R-3Z 宇和島中央
③2004年 2月 1日
④2009年 6月30日



①松尾 英夫(80歳)
②4R-1Z 高松南
③1973年10月27日
④2009年 6月12日



①嶋山 春繁(79歳)
②2R-2Z 今治
③1973年 4月19日
④2009年 6月 2日



①吉本幸一郎(95歳)
②6R-1Z 高知
③1959年 2月
④2009年 5月25日



①大森 隆雄(60歳)
③3R-1Z 大洲
③2005年 5月27日
④2009年 8月15日



①加藤 敬(88歳)
②2R-4Z 西条
③1961年10月19日
④2009年 8月10日



①越智 豊(62歳)
②2R-2Z 今治東
③1973年 7月22日
④2009年 8月10日



①井上 四郎(71歳)
②6R-2Z 土佐
③1970年12月16日
④2009年 8月 7日



①福家 功(74歳)
②5R-1Z 綾歌郡
③1998年 3月21日
④2009年 7月17日



①鶴代 幸雄(76歳)
②8R-1Z 小松島
③1998年 2月
④2009年 8月31日



①藤原 豊(59歳)
②2R-3Z 川之江中央
③2000年10月
④2009年 8月28日



①古味 茂(69歳)
②7R-2Z 高知黒潮
③1989年11月22日
④2009年 8月24日



①吉田 忠志(62歳)
②9R-1Z 鳴門
③2007年 9月 5日
④2009年 8月22日



①尾崎 弘(75歳)
②5R-2Z 善通寺
③1977年 3月
④2009年 8月20日

編集*後*記

▼今期、地区誌の編集委員を担当することになり、関委員長のご指導を頂きながら2冊目の発刊となりました。表紙は土佐清水LCの池内氏のご協力を頂き素晴らしい写真を掲載することができました。▼ガバナーの公式訪問が始まり、四国の9リジョン28ゾーン、155クラブの訪問を行いました。ガバナーとキャビネット役員の方々と一緒に同行させていただきました。各クラブの会長はじめクラブ役員の方々との活発な意見交換が行われ、会場全体が終始熱のこもった雰囲気になっていました。取材の機会を得た私も、ライオンの一員として大変勉強になりました。▼徳島キャビネットよりエクステンションされた徳島やまももLCが、無事、結成式を終えられました。おめでとうございます。▼336-A・B・C合同サマーキャンプの受入れ記事、また貴重な体験をされた派遣生の記事に感動いたしました。今期はライオンズクエストのワークショップも充実した活動になっていました。▼編集委員としてはまだまだ未熟で、皆様にご意見が伝わらない部分も多々あると思いますが、今後ともご指導くださいますようお願いいたします。

地区誌編集委員会(日)

Lions
Clubs
International



LIONS



第56回

地区年次大会 2010年4月10日[土]・11日[日]

ライオンズクラブ国際協会336-A地区

ガバナー・スローガン

ライオンの未来に、情熱と夢を持ってウィ・サーブ



We Serve

2009～2010年

ライオンズクラブ国際協会

336-A地区 徳島キャビネット

〒779-3131 徳島市下町本丁59-30

TEL 088-636-5336 FAX 088-636-5337

E-mail: lions@w8.dion.ne.jp